

エコな暮らしを身近なところから探ってみよう

愛東地区の豊かな自然やたくさんの施設とつながり、菜の花プロジェクトに関わった体験活動を行ったり、地域の福祉施設と協力し合ったりするなど、多様な体験活動を中心とした活動や実践的な活動へと、取組を広げている。

1 学校環境

本校は、鈴鹿の山々を背にし、田畑や果樹園の広がる農村地帯に位置している。近くには湖東三山の1つである「百済寺」があり、歴史と豊かな自然に囲まれた地域にある。

地域では兼業農家が多く、米、野菜の他にも地域の地形や気候を生かした、ぶどうや梨、スイカなどの栽培がさかんに行われており、本校児童も農家の方の協力により、その栽培の一端を実際に畑に行き、学習している。

愛東地区で行われている菜の花館『菜の花エコプロジェクト』は全国的にも有名である。また、環境に配慮しながら安全で安心な農作物を作る『環境こだわり農業』や『ゆりかご水田』などの推進にも力が注がれている。現在では、愛東エコプラザ「菜の花館」を拠点にして、資源循環型の地域作りが活発に進められている。

2 実践事例

(1) 廃油活動を使ってエコ運転（4年）

愛東エコプラザ「菜の花館」の出前授業を活用し、4年生では「資源のリサイクル」について体験的な学習をしている。愛東では、菜の花をたくさん栽培している。同時に、菜種油を搾油したり、使用後の天ぷら油を回収したりして、そこからディーゼル燃料のBDFを精製している。BDF精製は学校の理科室でも行えるため、出前講師による指導を行っていただいた。



廃油の精製についての学習

また、精製したBDFでカートを動かし、生活の中にある廃油が精製でき、違う形に変えて活かせることのすばらしさや、これからの自分たちのエコな暮らしの手がかりを知ることができた。

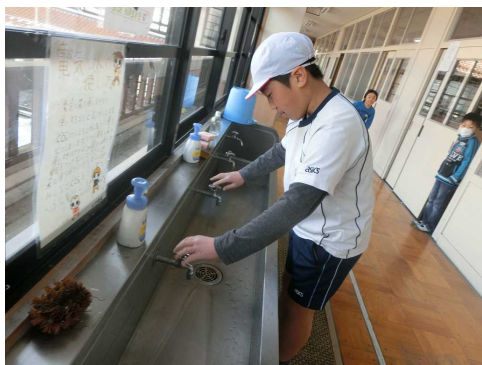


(2) エコ委員会の取り組み

ア 学年エコ宣言

エコ委員会では、4月の全校集会でエコ活動を呼びかけ、節水や節電に向けてのめあてを各学年で話し合い、「宣言」にして各教室に掲示している。

委員会からも“楽しく続けようエコ活動”を本年度はテーマにして、エコアラを通してエコ活動の啓蒙を図っている。学校内では、特に、暖房器具の入る冬期には、休み時間に暖房が切れているかの節電活動を行ったり、給食前や掃除の時などには節水に心がけているかを見て回ったりして、全校にエコ意識を高めてもらえるような活動を行っている。



イ エコキャップ活動

児童用昇降口には、「ペットボトルキャップ集めに協力ください」という呼びかけとともに、だれにでもすぐに協力してもらえよう、ペットボトルキャップ入れの箱を置いた。集めたペットボトルキャップは地域の福祉施設「あいとう和楽」に寄付し、福祉活動に役立ててもらっている。



(3) 新聞紙で学校美化

本年度の PTA 活動「親子作業」では、校内の窓拭きを行った。この活動では、洗剤を使わなくても新聞紙等できれいな窓ガラスになることを既に学習している 6 年生が中心となって活動を進め、参加者全

員がエコな暮らしへの意識化ができる時間として作業を進めた。

各家庭でもエコに努めておられるが、PTA でも、このような活動を通してエコな暮らしの意識化を図っていこうと考えて活動を進めている。

4 成果と課題

活動のスタート時には担当教師が場の設定を行うことも多かったが、エコスクール登録をして活動を進めてきたことは、今までの活動を知る子どもたちが率先して活動を進めていくことができるようになってきた。このような姿が見られるようになってきたことは、学習の中で、また、家庭生活の中での会話などを通して子どもたち自身が「エコな暮らし」を意識したことや、子どもたちのやっといこうという思いを持つことができるようになってきたことからうかがえる。今後も少しずつ学校生活や家庭生活の中で子どもたちが発信していくことができるように、学びの進化をめざし、よりよい体験活動を探っていきたい。

「エコな暮らし」はこれからの未来に生きる子どもたちには必要不可欠な学びである。今年度までの学びではまだ不十分な点もあることを理解している。子どもたちが日常的に実践活動していけるよう、学んだことを生かし、暮らしの中で、さらに PDCA サイクルを意識した学習に努めていきたい。



学校名	東近江市立愛東北小学校
住所	東近江市百済寺本町1399番地
電話番号	0749-46-0588
E-mail	aikitasho@higashiomi.ed.jp